



診療科紹介 心臓血管 外科

心臓血管外科 部長 峠 幸志

幅広い心臓血管疾患に対する専門的外科治療

鹿児島医療センター心臓血管外科では、虚血性心疾患、弁膜症、大動脈疾患、末梢血管疾患など、幅広い心臓血管疾患に対する外科治療を行っています。予定手術から緊急手術まで、患者さんの病態・年齢・併存疾患・生活背景などを総合的に評価し、一人ひとりに適した治療を提供することを基本方針としています。

当科では、冠動脈バイパス術や弁膜症手術などの心臓手術に加え、急性A型大動脈解離や胸部・腹部大動脈瘤などの大動脈疾患の治療にも力を入れています。特に急性A型大動脈解離など一刻を争う緊急大動脈疾患に対しては、循環器内科、救急科、麻酔科をはじめとする院内各部門と緊密に連携し、迅速に手術治療へ移行できる体制を整えています。

外科手術と血管内治療を融合した包括的治療

大動脈疾患に対しては、従来の開胸・開腹による人工血管置換術に加え、身体への負担が比較的少ない胸部・腹部ステントグラフト内挿術（TEVAR・EVAR）にも積極的に取り組んでいます。疾患の部位や形態、患者さんの年齢、全身状態などを総合的に評価し、外科手術と血管内治療それぞれの長を生かしながら、患者さんごとに適切な治療方法を選択しています。開胸・開腹手術だけでなく血管内治療という選択肢を持つことで、より幅広い患者さんに治療を提供できることは当科の大きな特徴の一つです。

また、循環器内科、麻酔科とのハートチーム医療を基盤とし、弁膜症治療では外科手術とTAVIの双方を含めた包括的な治療戦略を構築しています。各診療科がそれぞれの専門性を発揮し、患者さんの病態や全身状態、生活背景なども踏まえながら、個々の患者さんにとって最善と考えられる治療方針を決定しています。

近年、心臓血管外科領域では治療成績の向上だけでなく、患者さんの身体的負担をできる限り軽減することも重要になっています。当科では



TEVAR・EVARをはじめとする低侵襲治療を積極的に行うとともに、今後は低侵襲心臓手術（MICS）の導入にも取り組み、より身体への負担が少なく、早期回復・社会復帰につながる心臓血管外科治療を目指していく予定です。

ハートチーム医療と地域連携による質の高い医療提供

心臓血管外科の治療は、手術だけで完結するものではありません。術前評価から手術、集中治療、リハビリテーション、退院後の診療まで、循環器内科、麻酔科、看護師、臨床工学技士、リハビリテーションスタッフなど、多職種がそれぞれの専

門性を生かして患者さんを支えています。また、退院後も安心して地域で診療を継続していただけるよう、紹介元の先生方との連携を大切にしています。

私たちは、冠動脈・弁膜症手術などの標準的な心臓手術から、緊急大動脈疾患への対応、さらにTEVAR・EVARなどの血管内治療まで、幅広い治療選択肢を提供できることを当科の強みと考えています。今後も新しい知見と技術を着実に取り入れ、患者さん一人ひとりにとってより良い治療を追求するとともに、地域の先生方との信頼関係を大切にしながら、鹿児島県の循環器医療に貢献していきたいと考えております。

鹿児島から発信する脳卒中臨床研究 — 脳・血管内科における臨床研究の取り組み —

当科では、脳梗塞や脳出血などの急性期診療に24時間体制で取り組むとともに、「なぜこの患者さんは脳卒中を発症したのか」「どうすれば、より良い治療や予防につながれるのか」という日々の診療から生まれる疑問を、臨床研究によって明らかにすることを目指しています。

鹿児島の脳卒中の「今」を明らかにする

その基盤となるのが、鹿児島医療センター脳卒中データベース研究です。当院で診療した脳卒中患者さんの診療情報を蓄積し、脳卒中の原因、治療内容、治療後の経過などを詳しく解析しています。多くの患者さんの情報を集めることで、一人の患者さんだけでは見えてこない脳卒中の特徴や、新たな予防・治療の手がかりが見つかる可能性があります。

将来的には当院だけにとどまらず、さらに鹿児島県全体の脳卒中データベースへと発展させることを目指しています。地域全体の脳卒中の実態を把握することは、鹿児島に適した脳卒中医療体制を考えるうえでも重要です。

「遺伝子」から脳卒中の原因に迫る

鹿児島大学脳神経内科とは、脳卒中と遺伝子の関係を調べる共同研究を進めています。多くの病気は遺伝子の関与が少なからずあると近年いわれています。具体的にはRNF213という遺伝子の遺伝子多型(p.R4810K)は日本人の約2-3%が持つとされ、もやもや病や動脈硬化との強い関連が知られています。私たちは、こうした遺伝的な特徴と実際の脳卒中患者さんの画像所見や臨床経過を組み合わせることで、「同じ脳卒中でも、なぜ発症する人とならない人がいるのか」「遺伝的背景によって脳卒中の特徴や治療効果が異なるのか」を明らかにし、一人ひとりに適した予防や治療につなげることを目指しています。

脳出血と「脳の細い血管」を世界と研究する

もう一つの大きな研究テーマが、脳出血と脳小血管病(SVD)です。SVDとは、脳の中を走る非常に細い血管が長い年月をかけて傷んでいく病態(いわゆる動脈硬化の一型)で、脳出血や脳梗塞、認知機能低下などとの関連が知られています。当院では、国立循環器病研究センターや東京慈恵会医科大学などの国内共同研究に加え、オーストリア・グラーツ医科大学を中心とする国際共同研究にも参画しています。鹿児島の診療データを国内外のデータと組み合わせることで、脳出血やSVDの病態を世界的な視点から明らかにすることを目指しています。

新しい脳卒中治療を患者さんへ

さらに当院では、さまざまな新薬の治験や国内の多施設共同研究にも積極的に参加しています。国立循環器病研究センターのAFIDA研究、東京女子医科大学のPPAR-ICAS研究、日本医科大学のLACUNAR-tPA trialなど、全国の脳卒中専門施設と協力し、新しい診断法や治療法の確立に取り組んでいます。

日々の診療から生まれた疑問を研究し、その成果を再び患者さんの診療へ還元する、「鹿児島からより良い脳卒中診療を発信する」ことを目標に、これからも国内外の研究機関と連携しながら臨床と研究の両面から脳卒中医療の発展に取り組んでいきます。

日常診療から未来の脳卒中診療へ 鹿児島医療センター脳血管内科の研究の取り組み

私たちは、脳卒中の「原因の解明」「予測・予防」「新しい治療の開発」を目指し、日々の診療で得られたデータや最先端の研究を国内外の施設と連携して進めています。



診療科紹介 泌尿器科

泌尿器科医長 川平 秀一郎

当科では、2020年3月までは常勤医3名体制で診療を行っていましたが、同年4月より2名となり、2022年4月からは常勤医1名での診療を継続しております。

対応可能な疾患と治療方針

当科では、尿路感染症、尿路結石、前立腺肥大症や神経因性膀胱、過活動膀胱等の畜尿排尿障害、ならびに前立腺癌、腎癌、尿路上皮癌(腎盂癌・尿管癌・膀胱癌)などの悪性腫瘍を中心に診療を行っております。膀胱癌や前立腺肥大症、尿路結石に対する経尿道的手術、検査は実施しておりますが、複数医師を要する手術には対応しておらず、必要に応じて適切な医療機関へご紹介しております。2012年に前立腺癌に対するロボット支援手術が保険適応となりました。

以前の開腹手術や腹腔鏡手術に比べ患者様への身体的負担が減っており、泌尿器科手術、特に悪性腫瘍に関してはロボット支援手術が主流となっています。当院は手術支援ロボット導入には至っていないため、適切な医療機関へご紹介させて頂いております。

チーム医療による包括的な支援体制

当科では看護師、薬剤師、栄養士、臨床工学士、放射線技師、臨床検査技師、リハビリスタッフ、医療ソーシャルワーカーを含めた多職種でのチーム医療を実践しております。

ご紹介やご相談がありましたら、お気軽にご

連絡ください。今後とも何卒宜しく願い申し上げます。

泌尿器科 実績

手術	腎・尿管・副腎	腎臓・尿管癌	腹腔鏡下副腎摘出術
			腹腔鏡下腎臓全摘術
前立腺	前立腺癌	前立腺癌	腹腔鏡下腎部分切除術
			腹腔鏡下前立腺癌根治術
膀胱	膀胱癌	膀胱癌	経尿道的前立腺切除術(TURP)
			経尿道的前立腺切除術(TURBT)
精巣	精巣腫瘍	精巣腫瘍	腹腔鏡下膀胱全摘術
			経尿道的前立腺切除術(TURBT)
尿路結石	尿路結石	尿路結石	高位精巣摘除術
			経尿道的前立腺切除術(腎盂・尿管)
検査・処置	検査・処置	検査・処置	経尿道的前立腺切除術(膀胱)
			尿管ステント留置術
検査・処置	検査・処置	検査・処置	腎臓造設術
			膀胱造設術
検査・処置	検査・処置	検査・処置	前立腺生検
			前立腺生検

高度ながん診療を支える専門体制と多職種連携

外科・消化器外科は現在、鹿児島大学消化器外科(旧第一外科)の関連病院として、4名の外科医で構成されています。外科治療に関わる資格と施設認定として、日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医・指導医、日本がん治療認定医は取得しております。がんの外科治療に関わる施設認定として、日本外科学会修練施設、日本消化器外科学会修練施設があります。大学病院の関連施設でありますから、腹部の悪性疾患(胃癌、大腸癌、肝臓癌など)、すべてに対応可能です。がん診療ガイドラインを基本とし、消化器内科、放射線科、臨床病理、緩和ケアチーム、NST、外来化学療法室、がん支援相談室、関連ある各認定看護師、臨床心理士との連携のもと、全人的に患者さまをサポートいたします。適応のある症例は腹腔鏡下手術で行っています。今後はロボット支援手術の導入も検討中です。毎週火曜日午後5時30分からの合同カンファレンスでの症例検討会、キャンサーボードを通して、外科治療、化学療法、放射線療法を背景に各専門医の忌憚のない意見交換により決定します。

安全で低侵襲な外科治療

治療の主軸である手術は、安全性、根治性を第1としながら、がんの進行度、開腹手術歴、患者さまの要望も踏まえ、可能な限り、機能温存を追求し、腹腔鏡下手術を積極的に導入しています。腹腔鏡下手術は、胃切除、胃全摘、小腸切除、結腸切除(右側、横行、左側、S状)、直腸切除、直腸切断、括約筋間直腸切除術も行っております。当院は循環器系、脳血管系の専門性の高い診療科があるため、それらの合併症を有する患者さんも受け入れ、併診も頂きながら、ほぼすべての症例に対応しています。また、多くの良性疾患にも対応し、急性虫垂炎、鼠径・大腿・閉鎖孔ヘルニア、腸管癒着障害、胆石症などに対しては、鏡視下手術を基本とします。急性胆嚢炎、胃十二指腸潰瘍穿孔、大腸穿孔、虚血性腸疾患、上腸間膜動静脈閉塞など救急症例に対しては緊急手術で迅速性をもって対応いたします。

救急医療と地域医療への貢献

一時期は3人体制の時期もあり、急患をなかなか受け入れできない時期もありましたが、現在は4人にて、急患対応も可能となっています。この数年で構成人員の交代があり、地域連携が不十分であったかと思われます。地域に根差し、市民のためのより良き診療に研鑽してまいりますので、ご紹介、ご相談はお気軽にご連絡くださいませ、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



TOPIC

地域医療連携懇談会

メディカルサポートセンター長 田中 秀樹

第8回鹿児島医療センター地域医療連携懇談会を開催しました



令和8年6月4日、第8回鹿児島医療センター地域医療連携懇談会を開催いたしました。ご多忙の中、地域の医療・介護・福祉関係者237名、当院職員84名、計321名にご参加いただき、盛会のうちに終了することができました。ご参加いただいた皆様に心より御礼申し上げます。また、日頃より当院の地域医療連携にご理解とご協力を賜っておりますことに、深く感謝申し上げます。

当日は、西尾院長による「鹿児島医療セン

ターの現状報告」に続き、当院が重点的に取り組む三大疾病である「脳卒中・がん・心疾患」をテーマに講演を行いました。脳神経外科医長・久保文克先生より「脳血管の急性期治療について」、がん相談支援センター長・原口浩一先生より「当院の血液のがん診療について」、循環器内科部長・高崎州亜先生より「当院における循環器診療について」と題して、それぞれ当院の専門的な診療体制や最新の取り組みを紹介しました。

本懇談会は、地域の医療機関の皆様との「顔の見える連携」を深め、相互理解と信頼関係をさらに強固なものとするを目的として毎年開催しております。今年も講演会に加え、意見交換の時間を設け、多くの皆様と直接交流する貴重な機会となりました。

終了後のアンケートでは、来賓の皆様から

講演内容について約94%が「非常に良かった」「良かった」と回答され、講演時間や開催時期についても高い評価をいただきました。また、約85%の方が「次回も参加したい」と回答され、「他施設のスタッフと直接交流できた」「日頃電話でやり取りしている担当者と顔を合わせることができ、今後の連携に役立つ」といったご意見も寄せられました。当院職員からも、がん・循環器・脳血管疾患をはじめ、救急医療やその他専門領域の紹介を希望する意見や、今後の運営に向けた建設的な提案が寄せられました。

当院は「心臓病・脳卒中・がん」の専門施設として高度急性期医療を担うとともに、地域医療機関との連携を何より大切にしております。本懇談会を通じて築かれたつながりを日々の診療に生かし、地域の皆様により質の高い医療を提供できるよう努めてまいります。今後とも鹿児島医療センターへのご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

外来診療担当表2026年10月

診療科		曜 日	月	火	水	木	金
血液内科	初 診		大塚 真紀	原口 浩一	福徳 聡	大塚 真紀	大渡 五月
	再 診		大塚 真紀	大塚 真紀	大渡 五月	大塚 真紀	大渡 五月
	移植後フォローアップ外来※		福徳 聡	原口 浩一	福徳 聡	原口 浩一	
			血液内科医師及び看護師（完全予約制）				
糖尿病・内分泌内科			郡山 暢之	児島 奈弥 田平 健太	郡山 暢之	西尾 善彦 日高 明日奈	郡山 暢之 肥満症外来 児島 奈弥
糖尿病療養指導外来※			糖尿病看護認定看護師				
消化器内科	消化管・胆膵		福森 光 田平 悠二	福森 光 宮内 涼	福森 光 田平 悠二	「処置日」	福森 光 宮内 涼
	肝臓		櫻井 一宏	森内 昭博	櫻井 一宏	森内 昭博	櫻井 一宏
腎 臓 内 科			古庄 正英 外山 裕貴 (CKD連携外来)	腹膜透析外来	「手術日」	古庄 正英 倉八 加奈子 (CKD連携外来)	外山 裕貴 (第4金曜以外) ※第4金曜日は休診
第一循環器内科			片岡 哲郎 福元 大地 有村 俊博	片岡 哲郎 高崎 州亜 市成 浩太郎 (隔週)	今村 春一 河合 正太郎 中島 均	塞川 寛哉 寺園 逸正	片岡 哲郎 高崎 州亜 向井 麟太郎
第二循環器内科 *弁膜症外来 火曜日			園田 幸一郎 中別府 麻里	東 健作 平峯 聖久 後藤 淳一	藤田 正浩	石川 裕輔 伊集院 駿 田中 康博	東 健作 馬場 善政
不整脈治療科			塗木 徳人	塗木 徳人	蔡 榮鴻	二宮 雄一	塗木 徳人
脳・血管内科			松岡 秀樹 濱田 祐樹 池田 め衣	松岡 秀樹 浜田 祐輔 石丸 純梨 (1,3,5週) 吉留 萌 (2,4週)	松岡 秀樹 池田 め衣	松岡 秀樹 濱田 祐樹 吉留 萌 (1,3,5週) 石丸 純梨 (2,4週)	松岡 秀樹 池田 め衣
小 児 科 *心臓健診 月曜日～金曜日			田中 裕治 二宮 由美子 石川 香織	田中 裕治 二宮 由美子 石川 香織 (午前中)	田中 裕治 石川 香織 (午前中)	田中 裕治 二宮 由美子 石川 香織	田中 裕治 二宮 由美子 吉永 正夫
放射線科	放射線治療		西森 宏雄		西森 宏雄	西森 宏雄	西森 宏雄
	画像診断 CT・MRI・RI		井手上 淳一 阿久根 健太郎	井手上 淳一 上村 尚大	阿久根 健太郎	井手上 淳一 上村 尚大	井手上 淳一 阿久根 健太郎
心臓血管外科			向原 公介		峠 幸志		永富 脩二 寺園 和哉 (隔週で交代制)
外科・消化器外科				塗木 健介 崎田 浩徳 佐竹 霧一		塗木 健介 崎田 浩徳 佐竹 霧一	
脳神経外科 *水曜日は、手術日のため外来診療休診			久保 文克	久保 文克	「手術日」	増田 圭亮	手術日
婦人科 *完全予約制			神尾 真樹 徳留 明夫 税所 篤志	神尾 真樹 徳留 明夫 税所 篤志	「手術日」	神尾 真樹 徳留 明夫 税所 篤志	神尾 真樹 徳留 明夫 税所 篤志
耳鼻咽喉科 *完全紹介制 (初めてのの方は医師の紹介が必要です)			松崎 勉 西元 謙吾	「手術日」	松崎 勉 西元 謙吾	「手術日」	松崎 勉 西元 謙吾
泌尿器科 *火曜日は、手術日のため外来診療休診			川平 秀一郎	「手術日」	川平 秀一郎	川平 秀一郎 鹿児島大学病院医師	川平 秀一郎
皮膚腫瘍科			松下 茂人 青木 恵美 望月 亮佐 島田 邦彦	「手術日」	松下 茂人 青木 恵美 望月 亮佐 島田 邦彦 (1,3,5週) 貴田 理香 (2,4週)	「手術日」	松下 茂人 青木 恵美 望月 亮佐 貴田 理香
眼 科 ※ 外来診療のみ			中尾 久美子 午後 休診	中尾 久美子	午前 休診 中尾 久美子	中尾 久美子	中尾 久美子
歯科口腔外科			中村 康典 大河内 孝子	中村 康典 大河内 孝子	中村 康典 大河内 孝子	中村 康典 大河内 孝子	中村 康典 大河内 孝子
専門外来	医師		緩和ケア外来 松崎 勉		腹水外来 櫻井 一宏		がんゲノム医療相談外来 鈴木 紳介 (第1金曜日)
	看護師		フットケア外来 糖尿病看護認定看護師	ストーマケア外来 皮膚・排泄ケア認定看護師	リンパ浮腫指導技術者	ストーマケア外来 皮膚・排泄ケア認定看護師	
セカンドオピニオン外来※			循環器疾患、心臓血管疾患、脳血管疾患、がん、悪性新生物、血液疾患				
マルチモビリティ外来※			第2循環器内科	第1循環器内科	脳血管内科	腎臓内科	消化器内科
『健康診断』				第一循環器内科	第二循環器内科		脳・血管内科
受 付 午前8:45～10:00							

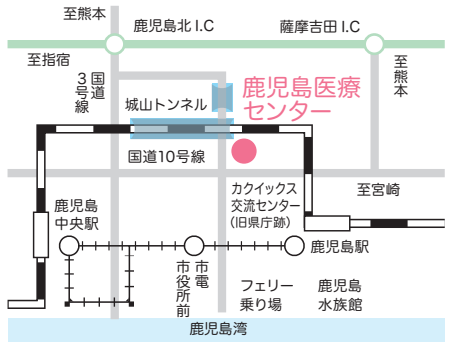
- 受付時間/午前8時45分から11時00分まで ●診療時間/午前8時45分から午後5時15分まで※ただし、急患についてはこの限りではありません。
●休 診 日/土・日曜日・祝日及び年末年始(12月29日～1月3日) ※移植後フォローアップ外来・糖尿病療養指導外来・専門外来・セカンドオピニオン外来・マルチモビリティ外来については完全予約制となっております。事前に電話確認をお願い致します。※不在予定医師につきましてはお電話またはホームページにてご確認ください。

患者さんのご紹介について

- STEP①** 予約センター(専用TEL:0120-680-704)へご連絡ください。
患者さま氏名・生年月日・ご連絡先・希望診療科をお尋ねいたします。
- STEP②** 希望医・希望日時に合わせて紹介先診療科の新患空予約枠をお取り下さい。
- STEP③** 後程、情報提供書のFAX(専用FAX:0120-334-476)をお送り下さい。

※ただし、一部の診療科(血液内科、不整脈治療科、眼科)は除きます。 ※検査などの関係で、予約日の変更依頼を当院から直接患者様へご連絡する場合がありますことと、内容によって院内の他診療科へ予約変更させていただく場合がありますことをご了承ください。 ※緊急性がある場合には、各診療科医師へ直接お電話ください。

予約センター 専用TEL 0120・680・704 専用FAX 0120・334・476
受付時間:月～金9:00～17:00(祝日・12月29日～1月3日を除く)



独立行政法人国立病院機構 鹿児島医療センター

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号 TEL:099(223)1151・FAX:099(226)9246

ホームページ <https://kagomc.hosp.go.jp>

